■森有礼 政治家。(明六社)を組織して啓蒙に努め、初代の文部大臣として近代学校制度を確立したが、暗殺された。

もりありのり

・ ・ ・ ・ ・ 1847= 鹿兒島城下で城下士中級の薩摩藩士の五男に生まれる。

ペリー来航・1853= 6歳：

同郷の五代友厚らの感化を受けて洋学への眼を開き、
松下村塾・・1856= 9歳：

藩校(造士館)入校後、

桜田門外変・1860=13歳：林子平の「海国兵談」を読破して、海外事情に通暁する必要を痛感、奮然と洋学修業を志す。

遣欧使節・・1861=14歳：長崎遊学から帰藩したばかりの上野景範に就いて英語を学び始める。

禁門の変・・1864=17歳：新設の藩立開成所に入る。

薩摩藩士密航1865=18歳：藩命により、五代友厚らとイギリスに密航留学。ローレンス=オリファントの影響で国際社会に関心、長州藩留学生の来訪を受け、ロンドンで海軍測量術を研究、オリファントに勧められロシアをも巡遊。

大政奉還・・1867=20歳：イギリスで会ったアメリカの宗教家トマス・ハリスを頼って渡米、勤労と信仰の生活を送り、

明治維新・・1868=21歳：帰国。岩倉具視を訪ね、明治新政府の徴士となり、議事体裁取調御用、学校取調となる。

戊辰戦争終・1869=22歳：公議所議長心得となり、廢刀論を提案したが否決され、一時免官となって帰郷。

初の日刊新聞1870=23歳：来日直後のオランダ改革派宣教師グリフィスと親交、外交と留学生の監督を命じられてアメリカに赴任、

廃藩置県・・1871=24歳：英文での編著「米国における生活と資源」を刊行、新島襄・折田彦市ら留学生の才能を見抜いて将来を託すほどの炯眼ぶりを発揮し、

学問のすすめ1872=25歳：「日本における宗教の自由」「日本における教育」。代理公使となり、岩倉使節団に随行してパリ訪問後、

明治6年政変 1873=26歳：*帰国。西村茂樹に相談して(明六社)を結成。英文「日本の教育」を著して注目される。

佐賀の乱・・1874=27歳：*(明六雑誌)を創刊、「妻妾論」その他を発表して啓蒙思想の時代を現出、商法講習所も発足させる。

初の民間工場1875=28歳：広瀬阿常と契約結婚後、駐清全権公使として中国に赴任、北京到着前に長男が誕生。

三つの反乱・1876=29歳：江華島事件の解決の目途をつけて帰国。来日したクラークを囲んでアメリカ建国百周年祝賀会。

琉球処分・・1879=32歳：新しく外務卿に就任した井上馨の思惑によって駐英全権公使となり、妻子を伴って渡英、ハーバート=スペンサーらと親交する一方、英国人女性嫌いになった妻阿常が精神的に鬱屈、親友の駐仏公使鮫島尚信が急逝、

明治14年政変1881=34歳：

岩倉具視没・1883=36歳：ロンドンを訪れた伊藤博文と活発に議論、イギリスとの条約改定交渉が一段落したことから、

秩父事件・・1884=37歳：自費出版した「日本政府代議政体論」を欧米の知識人に配布後、帰国。

内閣発足・・1885=38歳：*内閣制への移行に伴い、第1次伊藤博文内閣の文部大臣に就任。学校教育全体にわたる教育理念を「国家ノ須要ニ応ズル」との一貫させ、「運動会」「修学旅行」「身体検査」など現在も盛んな行事も始める。

帝国大学始・1886=39歳：*「帝国大学令」以下の各学校令を制定し、国家主義的教育制度の確立に最も努めたが、

国民之友始・1887=40歳：精神に異常きたした阿常と離婚した後、岩倉具視の娘寛子と結婚。

伊勢神宮参詣の際、いわゆる不敬事件を起こし、極端な欧化主義者と喧伝されたこともあって、

帝国憲法発布1889=42歳：*憲法発布式の当日、国粹主義者西野文太郎に襲われ、翌日没した。

著書に「維新前後政治の観察」などがある。